

大学入試の基礎知識

CONTENTS

大学入試の仕組みを知ろう！

- ▶ 大学入学共通テスト 2
- ▶ 一般選抜[国公立大個別(2次)試験] 4
- ▶ 一般選抜[私立大] 6
- ▶ 入試科目のパターンを知ろう 8
- ▶ 学校推薦型選抜・総合型選抜 10

英語外部検定利用入試について

- ▶ 利用方法やメリットを解説！ 12
- ▶ 英語の資格・検定試験をチェック！ 14

2025年度の「大学入学共通テスト」を徹底分析！ 17

▶ 2025年度大学入学共通テスト

【出題の傾向分析と学習アドバイス】

- 英語リーディング 18
- 英語リスニング 19
- 数学Ⅰ、数学A 20
- 数学Ⅱ、数学B、数学C 21
- 国語 22
- 情報Ⅰ 23
- 物理基礎／物理 24
- 化学基礎／化学 25
- 生物基礎／生物 26
- 地学基礎／地学 27
- 地理歴史 28
- 公民 29

【教科別 設問解説】

- 英語リーディング 30
 - 英語リスニング 32
 - 数学Ⅰ、数学A 34
 - 数学Ⅱ、数学B、数学C 36
 - 物理 38
 - 化学 40
 - 歴史総合、日本史探究 42
-

大学入試の仕組みを知ろう！

大学入学共通テスト

ポイント！

- ☑ 2026年は1月17日(土)・18日(日)に実施予定
- ☑ 国公立大で事実上必須、大半の私立大でも利用可能
- ☑ 出願や登録内容の変更はオンライン化される予定
- ☑ 検定料の支払いもオンライン決済に

共通テストとは？

大学での教育を受けるために必要な能力を測定する大学入学共通テスト(以下「共通テスト」)。2026年は、1月17日(土)・18日(日)の実施が予定されている。

国公立大学の一般選抜では、1次試験にあたり、その成績と各大学の個別試験(2次試験)とで合否が決定される。

私立大学の一般選抜では、ほとんどの大学が、共通テストの成績を利用する方式を設けていて、特に国公立大の学校推薦型・総合型選抜では、共通テストの成績が課される場合がある。

2026年の共通テストは電子出願に

2025年実施の共通テストは、改訂した学習指導要領・新カリキュラムに基づき行われた初めての試験。最も挑む価値のある“過去問”だ。

過去問演習以外にも、1月の本番までに自分の手でやるべきことがある。特に、2026年の共通テストからは、ウェブ上に作成したマイページを通じて、出願や受験票の印刷などを行う。検定料の支払いもオンライン決済が可能となる予定だ。高校を経由しての従来式出願や、検定料の受付証明書志願票に貼るなどの手間が省かれ、受験生個人がオンラインで進める形式となる。

◆2026年 大学入学共通テスト 出題教科・科目&試験時間・配点

教科	科目 ※「 」で1出題科目	科目選択方法	試験時間(配点)
国語	「国語」		90分(200点) ※大問数・配点…近代以降の文章(3問110点)、古文(1問45点)、漢文(1問45点)
地理歴史	「地理総合、地理探究」、「歴史総合、日本史探究」、「歴史総合、世界史探究」	最大2科目選択	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分[うち解答時間120分](200点)
公民	「公共、倫理」、「公共、政治・経済」		
数学①	「数学I」、「数学I、数学A」	1科目選択	70分(100点)
数学②	「数学II、数学B、数学C」		70分(100点)
理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」 (このうち2つを選択解答) 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」	最大2科目選択	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分[うち解答時間120分](200点)
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」	1科目選択	【英語】リーディング 80分(100点)、 リスニング 60分[うち解答時間30分](100点) 【英語以外】筆記 80分(200点)
情報	「情報I」		60分(100点)

※大学入試センター発表の「出題教科・科目の出題方法等」等をもとに作成。
※本記事の内容は、2025年2月時点の情報に基づく。

英語外部検定利用入試について

英語の資格・検定試験をチェック!

ここでは、入試で利用されるおもな英語の資格検定試験について、各試験の概要や、出題形式・受検料などを一覧表にまとめた。英語力を身につけておくことは大学受験のためのみならず、将来にわたって役立つはずだ。今からしっかりと対策を立てて、チャレンジしよう。

英検® (実用英語技能検定)

英語圏における社会生活に必要な英語を理解し、使うことができるかを測定する試験。日本の英語教育との相関が強く、大学入試で最も多く利用されている。各級で問題が異なっているので、早い段階からの受験が可能。3級以上は英作文、英語での面接が含まれる。

TEAP (ティープ)

大学での学習や研究に必要な英語運用力を測定する試験として開発され、日本の高校3年生の英語力を測定するのに最適なレベルに設定されている。大学での講義などのアカデミックな話題や、大学生活で多用される単語が出題されるので、専用の対策が必要だ。

▶ 英語の資格・検定試験 一覧 (表中のCBTは Computer Based Testing の略。検定試験をコンピュータを使って受験すること)

試験名	実施団体	測定・評価内容	受検人数
実用英語技能検定 (英検®) (従来型英検)	公益財団法人 日本英語検定協会	英語圏における社会生活に必要な英語を理解し、 使うことができるかを評価する。 ※詳細は英検HP で要確認。	約450万人(従来型) (2023年度実績)
英検S-CBT			
TEAP	公益財団法人 日本英語検定協会	大学で学習・研究する際に必要とされる英語運用 力を測定する。	約2.4万人 (2017年度実績。) (以後は非公表)
TOEFL® iBT	テスト作成: ETS 日本事務局: CIEE	高等教育機関で英語を用いて学業を修めるのに 必要な英語力があるかを測定する。	非公表
TOEIC® Listening & Reading Test	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC	一般からビジネスまで幅広い英語によるコミュニ ケーション能力(「聞く、読む」能力)を測定する。	約176万人 (2023年度実績)
TOEIC® Speaking & Writing Tests (TOEIC S&W テスト)	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC	国際的な職場環境において、効果的に英語でコ ミュニケーションするために必要な「話す、書く」 能力を測定する。	国内年間約5.8万人 (2023年度実績)
IELTS	ブリティッシュ・カウン シル・公益財団法人日本 英語検定協会	英語を用いたコミュニケーションが必要な場所 で就学・就業するために必要な英語力があるかを 評価する。	約3.7万人 (2017年度実績) ※全世界では約350万人以上
GTEC	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services	日常生活の場面を想定した出題で、英語コミュニ ケーション力を測る。	約126万人 (3技能検定を含む受検者数) (2018年度実績)
GTEC CBT	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人 進学基準 研究機構 (CEES) と共催	日常生活に加え、学習場面での英語の使用を想定 したアカデミックな素材も含めた出題で、大学で 学ぶ力が身につけているかを測る。	非公表
ケンブリッジ英語検定	ケンブリッジ大学 英語検定機構	学習者が実生活において、コミュニケーションの ために英語をどのように使うことができるかを 評価する。	国内人数非公表 ※全世界では約250万人以上

TOEFL iBT (トーフル アイビーティー)

英語で高等教育を修めるのに必要な英語力を測定する試験。アメリカで制作され、英語圏の大学・大学院留学に必要な、アカデミックな話題が多く出題される。「文化」「医学」など、大学講義で用いられる内容も多く問われるので、英語以外の知識も身につけて臨もう。

TOEIC (トーイック)

日常生活からビジネスまで幅広い場面における英語でのコミュニケーション力を測定する試験。アメリカで制作され、ビジネスの話題が多く出題される。オフィスでの会話など、高校生にはあまり馴染みのない語彙や表現が頻出なので、必ず対策を立てて臨もう。L & RとS & Wは別のテストでそれぞれ申込みが必要だ。

IELTS (アイエルツ)

英語を用いたコミュニケーションが必要な場において、就学・就業に必要な英語力を測定する。「アカデミック・モジュール」「ジェネラル・トレーニング・モジュール」の2種のテストがあり、大学受験で提出を求められるのは主に「アカデミック・モジュール」で、学術的なトピックが多く問われる。試験当日はパスポートによる本人確認があるため、事前に取得しておこう。

GTEC (ジーテック)

英語を使用する大学で運用できる英語コミュニケーション力を測ることを目的とした試験。リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4分野で構成されている。

・表中の情報は2025年4月現在。必ず各実施団体の公式ホームページで確認のこと。

出題形式・実施方式	受検料	ホームページのURL
<聞く>紙 <話す>個人面接 <読む>紙 <書く>紙	●1級:12,500円 ●準1級:10,500円 ●2級:9,100円(6,900円) ●準2級プラス:8,700円(6,400円) ●準2級:8,500円(6,100円) ●3級:6,900円(5,500円) ●4級:4,700円(2,900円) ●5級:4,100円(2,500円) ※すべて税込。括弧内は、準会場受検の場合。	www.eiken.or.jp/eiken/
<聞く>CBT <話す>CBT <読む>CBT <聞く>CBT* *解答は解答用紙手書き、またはキーボード操作のいずれかを選択	●準1級:10,600円 ●2級:9,700円 ●準2級プラス:9,300円 ●準2級:9,100円 ●3級:7,800円 ※すべて税込。	
<聞く>紙 <話す>面接 <読む>紙 <書く>紙	2技能<読む><聞く> 6,000円(税込) 4技能15,000円(税込)	www.eiken.or.jp/teap/
<聞く> CBT <話す> CBT <読む> CBT <書く> CBT	195USドル(受検料の表示はドル表示であるが、支払時に日本円表記となるオプションあり)	ETS ウェブサイト: www.ets.org/jp/toefl 学校・教育機関向けサイト: www.toefl-ibt.jp
<聞く>紙 <読む>紙	7,810円(税込)	www.iibc-global.org/toEIC.html
<話す> CBT <書く> CBT	10,450円(税込)	www.iibc-global.org/toEIC.html
<聞く>紙 <話す>面接 <読む>紙 <書く>紙	27,500円(税込)	www.eiken.or.jp/ielts/
<聞く>紙 <話す>タブレット <読む>紙 <書く>紙	8,700円(税込) (公開会場受験型)	
<聞く> CBT <話す> CBT <読む> CBT <書く> CBT	9,900円(税込)	www.benesse.co.jp/gtec/
<聞く>紙 <話す>面接 <読む>紙 <書く>紙	B2:24,860円(税込) B1:16,060円(税込) A2:14,300円(税込)	日本語サイト:www.cambridgeenglish.org/jp/

※英検®は公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標。 ※TOEIC®およびTOEFL®はエデュケーション・テスト・サービス(ETS)の登録商標。

英語 [リーディング]

問題構成

◆「英語（リーディング）」の問題構成

配点：100点

大問番号	分野	配点	設問数	出題内容（テーマ・分野など）
第1問	パンフレット	6	3	水槽のレイアウト
第2問	ブログ	12	4	空飛ぶ乗り物
第3問	物語文	9	3	バンドのコンテスト出場準備
第4問	エッセイの添削	12	4	スローライフのすすめ
第5問	メール	16	5	会議の開催準備
第6問	物語文	12	4	二人のヒーロー
第7問	説明文	16	5	動物の睡眠パターン
第8問	意見文・資料	17	5	宇宙開発

出題の傾向分析

パンフレットやブログ、物語文など、様々な場面を想定した英文が題材となっている。従来と類似の題材が多いなか、新傾向も見られた。第4問は、添削コメントを踏まえて、エッセイの一部を推敲する問題。第8問は、エッセイを書く前の準備段階として、エッセイのテーマに沿った意見を読み、テーマに対する自分の立場を定め、エッセイのアウトラインを作成するという問題であった。第4問・第8問ともに、大学入試センターが公表していた試作問題と同様の題材であり、英語を「書く」場面を想定した出題になっている。

出題形式も多岐にわたり、本文の内容一致、イラスト選択、意見と事実の判別、内容整序、複数の意見における共通点の選択などが出題された。本文の要点や概要を把握する力が問われている。

試験で使用された語彙・文法は標準的なレベルであった。表記については、第2問・第3問でcentres、practisingなどのイギリス英語も使用された。

試験全体の英語の語数は昨年度より減少したものの、試験時間80分ということを考えると、依然多いと言えるだろう。

学習アドバイス

基本的なことではあるが、まずは「語彙・文法」を身につけることが重要だ。学校の授業や、単語帳・文法書を活用して、基礎を固めよう。

共通テストでは、様々な題材・出題形式が扱われる。類題演習を通して、共通テストの傾向に慣れていこう。また、今回は、英語を「書く」場面を意識した問題が出題された。エッセイの構成や、談話標識（discourse markers）など、英語を「書くこと」に関する知識を身につければ、こうした新傾向の問題にも対応しやすい。

共通テストでは、速読力も求められる。文字の並びに沿って英文を速く読む力だけでなく、効率的に読む力も重要だ。「問いの意図を理解し、読み取りが必要な部分に素早くアクセス」できれば、解答までの時間を短縮できる。「英文全体の構成を把握する」こともまた、効率的な読みにつながる。問題演習の際は、これらのことを意識して読むことを心がけよう。問題演習に慣れてきたら、大問ごとに制限時間を設定して取り組むことも、速読力養成に効果的だ。